

## 『子としての訓練』 ヘブル人への手紙12章1～11節 2016.10.23(聖日礼拝説教より)

『信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。…それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。』  
ヘブル人への手紙12章1、3節

人生は御国への旅！迷子にならないためには、道案内される『イエス様から目を離さない』こと！そのために仲間(教会)があり、声かけ、励まし合う！その旅は神の子としての鍛錬の道でもある。

❶旅で大切なのは、『重荷を捨てる(12:1)』こと。無用な荷物は疲れただけ。実はその『重荷』とは律法主義のこと。誰でも、義務や責任、禁止(～するな)や命令(～しなさい)が連呼されれば、最初は頑張れても、やがて疲れて元気を失う。父なる神は、あなたが何をしようと愛しておられる！◆例えば赤ちゃんは、何をしても許される！ウンチを漏らそうが、空腹で泣き叫ぼうが、笑顔と深い愛情で包まれる。『何でも許され、生きていていいんだ』という「基本的信頼」こそが「しつけ」の大前提！神の子としての基本的信頼は、『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます(マタイ 11:28)』と言われたイエス様から得る！義務や責任を負う前に、まず神の愛に憩い、「基本的信頼」を回復しよう！

❷神の子が元気に世の旅を続ける第二の秘訣は『まわりつく罪を捨てる(12:1)』こと。神はその子らを「基本的信頼」を土台に訓練される。『懲らしめる(10節)』は、「しつける」の意。人の心には、善を愛する心と悪を愛する心が矛盾なく同居する。人は正しいことを知りつつも実行できない。それは、神の聖さを知らず、神がどんなに罪や汚れを嫌い、徹底的に裁かれるかを恐れず、罪と戦わず、抵抗しないから！◆神の子は、普通に御声を聴き(聖書を読み)、普通に神に応答し(祈り)、普通に神に喜ばれる奉仕をするはず。そこには強制も義務もなく、ただ御旨に生きることが嬉しいだけ！ただ、それが「普通」になるには意識と努力が要る！◆イエス様は「野の花を、空の鳥を見てご覧」と、日常を支える驚くべき恵み、普通に守ってくださる神への信頼を教えた。全ての訓練は『神の聖さを身につける(10節)』ため。

★今週、生活のどこを切り取られても、どの場面を見られても、神に喜ばれる心と行いであるために、どうすれば良いか主に問いつつ歩もう！